3 ふくふくの会　理事長　竹林 健二さん

取材日：2020年2月6日

田舎だからいい加減なことをしたくない

『利用者はもちろん、職員も思いやる』

レクリエーション中考える事、やりがいを教えてください。

私は、利用者の方が笑ってくれたり、少し反応してくれると、とても嬉しいです。そして、普段表情が見られない方に、表情を作ることです。また、スタッフの動きを見ることで、仕事を楽しんでやれているかどうかを見ることで、利用者さんと一緒に職員が笑っているのを見ることが私のやりがいです。

『価値観について』

活動理念について教えて下さい。

ふくふくの会では、「しまで（島で・死まで）生き抜く」ということを理念に掲げ活動をしています。意味はただ生きるのではなく自分らしく活き活きと生き抜く。それのお手伝いするのがこのふくふくの会が存在している意義であると考えています。働いている職員全員が共通の考え方を持ち日々全力で活動をしています。ですが、全員が共通の考え方を持つというのはとても大変です。そこで、ふくふくの会では月に一度職員全員が集まり活動理念の共有などを行っています。

『大切にしていること』

人と接するなかで、一番大切にしている事を教えてください。

一番大切にしていることは、人の死に慣れないでほしいこと、一人一人を大事にしてほしいことです。そして、いつ最期の時来ても利用者の方が「よかったな」と思えるように、日々いい支援を送り続けることが大切だと思います。自分が豊かでないと、人の支援はできません。自分が豊かになることが、利用者さんに優しく対応できるようになる第一歩です。もし行き詰ったときには、日常のほんのちょっとしたことを変えてみることで、何かが変わるかもしれません。なので、自分の心にゆとりを持たせることも大事だと考えています。

『今の仕事のキッカケ』

島で仕事を始めた理由はなんですか？

私はずっと弓削島に住んでいまして、ここで仕事をすることが当たり前のことだと考えていました。それなので弓削島で仕事をしたいと思った理由は「ここで生まれ育った」からです。

ふくふくの会を始めたきっかけは？

元々役場に勤めていましたが、実家が写真家で自由な家風だったので、いつか独立しようと考えていました。「島で死んでいきたい」とおばあちゃんが言った時、その願いを叶えたいと考え、実現するためにふくふくの会を設立しました。

ふくふくとは

従業員34名、利用者48名います。建物は神社の境内の中で、以前は幼稚園として使用していました。とても地域になじみやすく、またロケーションが良く散歩中には海を眺め潮風にあたり砂浜を触るなど自然を感じることができます。緑が多く豊かな島で生き抜くことをサポートします。

取材者：小西・大出・香川
撮影者：大鳥